

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名	小児看護学概論	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	甲斐 有美子 (元専任教員 13年)		
<p><科目目標></p> <p>小児の特徴を理解し、小児看護の基本的な考え方を理解する。さらに、小児の正常な成長発達と各期の特徴・小児保健の動向と小児に関する保健医療について理解する。</p> <p><内容></p> <p>【課題1】(夏季休業中)</p> <p>現在社会にて、問題視される以下の4つの視点から、1つ選択し、選択した理由と問題に関する考えを論じる。①「少子高齢化」②「虐待問題」③「いじめ問題」④「青年犯罪」 枚数制限なし。ただし、次の書式を守ること。1)A4横書き 2)手書きでもパソコン使用でも可。使用文献がある場合明記。インターネットからのそのままの引用は不可。問題を取り上げた事例が(新聞記事など)ある場合は、その内容も記載し提出する。</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	<p>1. 小児看護の特徴と理念</p> <p>1)小児看護の目ざすところ</p> <p>(1)小児看護の対象：子どもの特徴、子どもと家族・社会、子どもと医療</p> <p>(2)小児看護の目標と役割：小児看護の目標、小児看護の役割</p> <p>2. 小児医療と小児看護の変遷</p> <p>(1)小児看護のはじまりと変遷</p> <p>(2)小児医療と疾病構造の変遷</p> <p>(3)小児医療・小児看護における倫理的配慮：小児観の変遷、小児の人権(児童憲章、児童の権利に関する条約、アドボカシー、インフォームドアセント、医療現場で起こりやすい問題点と看護)</p> <p>(4)小児の入院環境の変化</p> <p>(5)小児看護で用いられる理論(セルフケア理論、エリクソン自我発達理論、ピアジェの認知発達理論等)</p> <p>(6)これからの小児看護</p> <p>(7)小児看護の課題</p>	講義	
2	<p>2. 小児看護の対象</p> <p>1)ライフサイクルからみた小児看護の特徴と発達課題</p> <p>(1)新生児期 (2)乳児期 (3)幼児期</p> <p>(4)学童期 (5)思春期</p> <p>2)小児看護の対象としての母親、家族</p>	講義・演習	
3～8	<p>3. 小児各期の成長と発達</p> <p>1)成長発達の概念</p> <p>2)成長発達の一般的原則</p> <p>3)成長・発達に影響する要因</p> <p>4)形態的・機能的発達</p> <p>5)生理的機能の発達</p> <p>6)心理社会的発達</p> <p>7)発達・発育の評価</p>	講義・演習	

回	授業内容	授業方法
9・10	<p>4. 小児保健の動向と保健医療施策</p> <p>1) 小児保健の動向 (1) 人口構造 (2) 出生と家族 (3) 子どもの死亡 (4) 不慮の事故 i. 小児の事故と事故原因の背景 チャイルドビジョン・チャイルドマウス ii. 事故防止と安全教育</p> <p>2) 小児をめぐる法律と政策 (1) 児童福祉施策 (2) 母子保健施策</p> <p>3) 予防接種 (1) 予防接種法 (2) 予防接種の概要と種類</p> <p>4) 学校保健 (1) 学校保健安全法 (2) 健康診断・健康相談 (3) 感染予防 (4) 学校保健活動の推進 (5) 諸統計からみた小児と家族の健康課題</p>	講義・演習
11～14	<p>5. 健康な小児の生活</p> <p>1) 小児の栄養 (1) 小児にとっての栄養の意義 ①小児の栄養の特徴 ②小児各期の栄養の特徴 ③食育</p> <p>2) 新生児の養育と看護</p> <p>3) 乳幼児の養護と生活指導 (1) 基本的な生活習慣の獲得 (2) しつけ</p> <p>4) 小児と遊び (1) 遊びの意義と発達 (2) 現在の遊びの変化(社会の中での)インターネット・漫画・携帯電話での遊び・体感ゲームなど (3) 遊びの影響</p> <p>5) 学童の健康増進とセルフケアの発達 (1) 学童の生活行動 (2) 学童期の健康問題と生活指導</p> <p>6) 思春期・青年期の小児の生活の特徴 (1) 思春期の小児の生活の特徴 (2) 思春期の健康問題と看護 (3) 現在社会の問題(反社会的・逸脱行動)</p> <p>7) 家族への看護 (1) 小児各期の家族への看護</p>	講義・演習
15	<p>6. 社会の中の小児</p> <p>1) 小児と家族 (1) 小児にとっての家族の意義と役割 (2) 健康な家族 (3) 問題のある家族・小児虐待の種類 (4) 家族アセスメント</p> <p>2) 現代社会における小児の諸問題 (1) 高齢化社会と小児保健 (2) 母親の就業と育児 (3) 小児を取り巻く環境 (4) 社会的不適応と健全育成 (5) 現在の遊びの変化(社会の中での)インターネット・漫画・携帯電話での遊び・体感ゲームなど (6) 遊びの影響 (7) 現在社会の問題(登校拒否・ひきこもり・うつ・自殺、早期妊娠、中絶、性感染症など)</p> <p>3) 災害時の小児と家族 (1) 災害による小児への影響とストレス (2) 災害時の小児と家族への援助</p>	講義・演習

授業の進め方

小児の特徴を理解し、小児看護の基本的な考え方を学ぶ。さらに小児の正常な成長発達と各期の特徴、小児保健の動向と小児に関する保健医療について学習する。講義（VTR も使用）と演習で授業を進める。グループワークや、幼児の特徴を理解するために幼児視野疑似体験、チャイルドマウスを用いた演習を行う。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
2. 国民衛生の動向 2021/2022 年版(厚生統計協会)

評価方法

筆記試験、事前課題

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名	小児看護方法論Ⅰ	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	①古賀 寛史(別府医療センター・小児科医長) ②後藤 勝政(西別府病院・神経内科部長) ③菅谷 愛美(別府医療センター・小児診療看護師・看護師23年) ④宮崎 恵子(別府医療センター・新生児集中ケア認定看護師・看護師30年) ⑤須賀 美佳(西別府病院・副看護師長・看護師16年) ⑥築山 恵里奈(西別府病院・看護師16年)		

<科目目標>

小児期にみられる主要な健康障がいと小児の特徴に応じた看護を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法	担当講師
1	1. 小児期にみられる主な健康障がい 1) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 2) 新生児の疾患 (1) 低出生体重児の特徴、主な疾患 i. 新生児の疾患 ii. 低出生体重児の疾患 iii. 成熟異常	講義	①
2	3) 内分泌・代謝系疾患 (1) 新生児マス - スクリーニング (2) 先天代謝異常症 (3) 代謝性疾患 (4) 下垂体疾患 (5) 甲状腺疾患 等 4) 呼吸器疾患 (1) 先天性喘鳴 (2) 上気道の疾患 等	講義	①
3	5) 循環器系疾患 (1) 先天性心疾患 (2) 川崎病 (3) 後天性心疾患 等	講義	①
4	6) 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患 (1) アレルギーの分類と発生機序 (2) アレルギー性疾患 (3) 原発性免疫不全症 (4) リウマチ性疾患 等	講義	①
5	7) 感染症 (1) ウイルス感染症 等 8) 皮膚・眼・耳鼻咽喉科疾患 (1) 皮膚 (2) 眼 (3) 耳	講義	①
6	9) 消化器疾患 (1) 口腔疾患 (2) 頸部嚢胞・瘻孔 (3) 横隔膜の疾患 (4) 食道の疾患 等 10) 血液・造血器疾患 (1) 貧血 (2) 出血性疾患 等 11) 悪性新生物 (1) 造血器腫瘍 (2) 脳腫瘍 等	講義	①
7	12) 腎・泌尿器系および生殖器疾患 (1) 泌尿・生殖器の奇形 (2) 腎糸球体疾患 (3) 腎尿細管疾患 等 13) 運動器疾患 (1) 先天性股関節脱臼 (2) 先天性内反足 (3) 先天性筋性斜頸 (4) 骨折 等	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
8	14) 精神疾患 (1) 総論 (2) 発達障害 (3) 神経症性障害、精神病性障害(統合失調症・気分障害) (4) その他の行動上の障害(不登校・反社会的行動・いじめ)	講義	①
9	15) 事故と外傷(スポーツ外傷も含む) 16) 子どもの虐待 (1) 虐待に伴う異常の早期発見 等	講義	①
10	17) 神経疾患 (1) けいれん性疾患 (2) 脳性麻痺 (3) 筋疾患	講義	②
11	1. 健康を障がいされた小児と家族の理解 1) 健康を障がいされた小児と家族の理解 (1) 健康障がい小児に及ぼす影響 ①健康障がいに対する小児の反応 ②小児の病気の理解 健康障がい小児の成長・発達に及ぼす影響 ③各病期にある小児と家族への援助(発達段階別のプレパレーションの活用) (2) 健康障がい家族に及ぼす影響	講義	③
12	2. 外来における小児の看護 1) 外来における小児看護の特徴 (1) 緊急度の把握 ①トリアージ ②優先順位の判断 (2) 安全の確保(事故防止、感染症対策) 2) 外来を訪れる小児と家族の特徴 3) 外来における小児と家族の看護 (1) 緊張と不安の軽減 3. 入院における小児の看護 1) 入院が小児に与える影響 (1) 病気や入院に伴う小児の反応 2) 入院が同胞・家族に与える影響 3) 入院時の看護 (1) 計画入院、緊急入院時 (2) プレパレーションの活用 4) 入院各期の看護 (1) 短期入院 (2) 長期入院 5) 発達段階別小児の看護 6) 小児病棟の管理 (1) 小児病棟の環境と規則 (2) 安全管理 7) 退院時の看護 (1) 入院生活から在宅への移行に向けた支援 (2) 多職種連携と社会資源	講義	③

回	授業内容	授業方法	担当講師
13	4. 低出生体重児の看護 1) 胎外生活への適応の促進 (1)体温の調整 (2)呼吸の調整 (呼吸窮迫症候群：RDS) (3)循環の調整 (4)水分・電解質バランスの調整 (5)低血糖の予防 (6)栄養 (7)感染予防 2) 成長・発達の促進 (1)姿勢保持と相互作用の促進(ポジショニング・ホールディング、タッチケア、カンガルーケア) (2)環境の調整(音環境、光環境、新生児集中治療室) (3)継続支援 3) 家族への看護 5. 高ビリルビン血症の小児の看護 1) 光線療法を行う小児の看護 2) 交換輸血を行う小児の看護 3) 家族への看護	講義	④
14	6. 先天的問題をもつ小児と家族 1) 先天異常の種類と特徴 2) 小児の発達段階に応じた援助 3) 家族の健康障がいへの理解と小児の受容に対する看護 4) 小児の養育とケア技術獲得に対する家族の援助 ＊代表疾患：ダウン症候群など	講義	⑤
15	7. 心身障害のある小児と家族 1) 心身障害の種類と定義 2) 発達障害 3) 心身障害の受容 4) 経管栄養法 5) 小児と家族の日常生活への支援と社会資源の活用 (1)療育施設における看護 (2)レスパイトケア 代表疾患：脳性麻痺など	講義	⑥
授業の進め方 それぞれ事例を加えながら、視聴覚教材などを用いて説明をしていく。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) : ③④⑤⑥ 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論(医学書院): ①②③④⑤⑥			
評価方法 筆記試験			

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期																					
科 目 名	小児看護方法論Ⅱ	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)																					
講 師 (所属・職位等・実務経験)	山元 清子(別府医療センター附属大分中央看護学校専任教員・看護師24年)																							
<p><科目目標> 小児看護学概論・小児看護方法論Ⅰ・小児看護方法論演習で学んだ知識や技術を統合し、事例を通して健康障がいをもつ小児の看護を理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1.小児看護学における看護過程の特徴 2.ネフローゼ症候群の患児の看護について 【事例】学童期 男児 ネフローゼ症候群 1)情報収集の視点(1)情報収集の方法(2)発達段階と必要な情報</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2)情報分析の視点 (1)健康障がいと小児の身体的特徴の関連 i.ネフローゼ症候群の病態・成り行きと治療、看護 ii.ネフローゼ症候群の病期に応じた援助 iii.ステロイド治療と副作用 iv.安静療法と治療が患児に及ぼす影響</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>3・4</td> <td>(2)健康障がいが発達段階に及ぼす影響 i.理論の活用：発達課題論など (3)小児の健康障がい家族に及ぼす影響 i.理論の活用：家族理論 (4)病気による小児と家族の生活の変化</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>3)看護診断 (1)関連図 (2)必要な看護診断とその優先順位</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>6・7</td> <td>4)具体的計画 (1)成長発達段階を考慮した具体策 (2)家族を含めた援助 (3)養護が必要な児への看護</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5)評価</td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1.小児看護学における看護過程の特徴 2.ネフローゼ症候群の患児の看護について 【事例】学童期 男児 ネフローゼ症候群 1)情報収集の視点(1)情報収集の方法(2)発達段階と必要な情報	講義 演習	2	2)情報分析の視点 (1)健康障がいと小児の身体的特徴の関連 i.ネフローゼ症候群の病態・成り行きと治療、看護 ii.ネフローゼ症候群の病期に応じた援助 iii.ステロイド治療と副作用 iv.安静療法と治療が患児に及ぼす影響	講義 演習	3・4	(2)健康障がいが発達段階に及ぼす影響 i.理論の活用：発達課題論など (3)小児の健康障がい家族に及ぼす影響 i.理論の活用：家族理論 (4)病気による小児と家族の生活の変化	講義 演習	5	3)看護診断 (1)関連図 (2)必要な看護診断とその優先順位	講義 演習	6・7	4)具体的計画 (1)成長発達段階を考慮した具体策 (2)家族を含めた援助 (3)養護が必要な児への看護	講義 演習	8	5)評価	講義 演習
回	授業内容	授業方法																						
1	1.小児看護学における看護過程の特徴 2.ネフローゼ症候群の患児の看護について 【事例】学童期 男児 ネフローゼ症候群 1)情報収集の視点(1)情報収集の方法(2)発達段階と必要な情報	講義 演習																						
2	2)情報分析の視点 (1)健康障がいと小児の身体的特徴の関連 i.ネフローゼ症候群の病態・成り行きと治療、看護 ii.ネフローゼ症候群の病期に応じた援助 iii.ステロイド治療と副作用 iv.安静療法と治療が患児に及ぼす影響	講義 演習																						
3・4	(2)健康障がいが発達段階に及ぼす影響 i.理論の活用：発達課題論など (3)小児の健康障がい家族に及ぼす影響 i.理論の活用：家族理論 (4)病気による小児と家族の生活の変化	講義 演習																						
5	3)看護診断 (1)関連図 (2)必要な看護診断とその優先順位	講義 演習																						
6・7	4)具体的計画 (1)成長発達段階を考慮した具体策 (2)家族を含めた援助 (3)養護が必要な児への看護	講義 演習																						
8	5)評価	講義 演習																						
<p>授業の進め方 小児看護学実習(1)、実習記録(2)(3)(4)、実習記録(8)を用い、事例の患児の看護過程を展開していく。具体的計画立案は、グループで演習を行う。各グループで発表を行い、学びの共有を行う。</p>																								
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 2.系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論(医学書院) 3.NANDA-I 看護診断 定義と分類<2018/2020>(医学書院) 4.発達段階からみた小児看護過程+病態関連図(医学書院) 																								
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.レポート評価 2.講義参加状況 (初回講義時に詳細は説明) 																								

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名	小児看護方法論演習 (疾病の経過に応じた看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経歴)	①佐藤 綾香 (別府医療センター・看護師8年) ②平下 理香 (大分県立病院・看護師長) ③菅谷 愛美 (別府医療センター・小児診療看護師・看護師23年)		
<科目目標> 小児各期に発生頻度が高い症状等の発生因子とメカニズムを理解し、健康障害を持つ小児の看護に必要な看護技術を身につける。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～2	1. 疾病の経過に応じた小児と家族の看護 1) 急性期にある小児と家族の看護 (1) 急性期にある小児と家族の特徴 (2) 急性期にある小児と家族の看護 *代表疾患：気管支喘息、川崎病 2) 慢性期にある小児と家族の看護 (1) 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 i. 病気の時間的経緯と急性憎悪 ii. 小児慢性特定疾患治療研究事業 *代表例：I型糖尿病 (2) 慢性期にある小児と家族の特徴と看護 i. 病気による小児と家族の生活の変化 ii. 小児の発達とセルフケア獲得への援助 iii. 地域との連携・調整 iv. 学習支援と復学支援	講義	①
3～6	3) 周手術期にある小児と家族 (1) 小児期の周手術期の特徴 ①小児期の手術の特徴 i. 手術適応と特徴 ii. 緊急手術 iii. 計画手術 iv. 日帰り手術 ②手術を受ける小児と家族の反応 i. 小児と家族の準備状態の把握 ii. プレパレーション (2) 小児と家族の看護 ①術前の看護(術前準備) ②手術室及び回復室での看護 ③術後急性期の看護 i. 手術後の身体状態のアセスメントと看護 ii. 小児の安全・安楽への看護と家族の援助 ④術後回復期の看護 i. 退院に受けての看護 ii. 回復期にある小児と家族の特徴と看護 (3) 手術を要する健康障害と時期 *代表疾患：先天性疾患 (ファロー四徴症、食道閉鎖症、ヒルシュスプリング病、肥厚性幽門狭窄症など)	講義	②

回	授業内容	授業方法	担当講師
	4) 終末期にある小児と家族の看護 (1) 終末期にある小児と家族の特徴と看護 ①小児及び家族の心理 (きょうだいの心理も含む) と援助 (2) 小児のターミナルケア ①小児への病気の説明(死についての小児のとらえ方) ②緩和ケア ③死に直面した小児及び家族への看護(兄弟への看護も含む) *代表疾患: 急性白血病		
7~8	2. 小児の症状の観察と看護 1) 主な症状と看護 (1) 不機嫌・啼泣 (2) 呼吸困難 (3) 発熱 (4) 嘔吐 (5) 下痢 (6) 脱水 (7) けいれん (8) 意識障害 (9) 発疹	講義	③
9	3. 小児看護に必要な看護技術 1) コミュニケーション (1) 発達に応じたプレパレーション 2) バイタルサイン測定 3) 身体的アセスメント (1) 一般的外見 (活気、機嫌など) (2) 瞳孔の対光反射の確認 (3) 視力検査 (4) 外耳道・鼓膜の観察 (5) 胸郭の打診 (6) 呼吸音の聴診 (7) 頸動脈の視診・触診・聴診 (8) 心尖部の視診・触診・聴診 (9) 心音と心雑音の聴診 (10) 腹部の視診・聴診・打診・触診 など	講義	③
10	4) 与薬 (1) 乳首、スポイトによる方法 5) 採尿 (1) 採尿パックの使用方法 6) 注射 (1) 注射施行時の固定 7) 輸液療法 (1) 輸液時の固定 (2) 小児用輸液セット 8) 採血 (1) 採血時の固定 (2) 刺入部の固定法 9) 穿刺 (1) 骨髄穿刺 (2) 腰椎穿刺 ①穿刺時の固定	講義	③
11~12	10) バイタルサイン測定 (1) 直腸検温 (2) 心拍測定 (3) 血圧測定 11) 身体計測 (1) 身長 (2) 体重 (3) 胸囲・腹囲 (4) 頭囲・大泉門	講義 演習	③
13~14	4. 様々な状況にある小児と家族への援助 1) 活動制限が必要な小児と家族の看護 (1) 活動制限の目的 (2) 身体的・精神社会的影響 (3) 活動制限中の小児と家族の看護 ①小児の発達段階に応じた援助 ②小児の日常生活にかかわる家族の援助	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
13～14	2) 隔離が必要な小児と家族 (1) 隔離の目的・方法 (2) 身体的・精神社会的影響 (3) 隔離が必要な小児と家族の看護 ①小児の身体・情緒・発達面を考慮した日常生活の援助 ②家族の面会や付き添いにおける援助 *代表疾患：麻疹、水痘症 3) 痛みのある小児と家族 (1) 小児の痛みの受け止め方 (2) 痛みの表現方法 (3) 痛みの客観的評価(アセスメント) (4) 痛み緩和への援助	講義	①
15	5. 救急処置と緊急時の看護 1) 小児の事故 (1) 起こりやすい理由 2) 救急処置 (1) 誤飲物質と処置 ①化学物質と誤飲 ②固形物の誤飲 (2) 溺水と処置 (3) 出血：鼻出血 (4) 熱傷の特徴、重症度と処置 (5) 小児の一次救命処置 (6) 乳幼児・小児の意識レベル (7) 吸引・酸素療法 3) 救急処置を受ける小児と家族の不安の緩和	講義	①
授業の進め方 疾病の経過に応じた小児と家族の看護では、小児看護方法論Ⅰ（小児期にみられる主な健康障がい）などの既習知識を活用しながら、視聴覚教材を用い、代表疾患の事例など具体的な事例を加えながら説明する。 小児の症状と観察については、小児各期に発生頻度が高い症状の発生因子とメカニズムを理解し、必要な看護について学ぶ。また小児看護の看護技術について、演習を通して学ぶ。演習では、事例を用いて、小児の症状の観察・看護技術で学んだ知識を生かし、アセスメントを行いながら、バイタルサインペーパーを用いてバイタルサイン測定、身体測定を行う。 様々な状況にある小児と家族への看護・救急処置と緊急時の看護への看護では、小児看護学概論で学んだ小児の特徴や、小児看護方法論Ⅰで学んだ内容を活用し、具体的事例を加えながら説明する。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) : ①②③ 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院) : ①②③			
評価方法 筆記試験			